

2024（令和6）年度『特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業』

才能が伸びる環境と風土

筑波大学

研究協力校：筑波大学附属駒場中・高等学校



筑波大学附属駒場中・高等学校（「筑駒」）の特徴

過去10年間の科学系オリンピックにおける日本代表選出者の人数

2024年5月現在

学校名	数学	情報	物理	生物	化学	地学	地理	合計
筑波大附属駒場	9	7	7	6	4	5	7	45
A校	7	6	6	8	4	7	4	42
B校	7	4	1	0	0	3	1	16
C校	3	1	1	0	1	1	0	7
D校	0	0	5	0	1	0	0	6
E校	0	0	0	2	0	3	1	6
F校	2	0	1	0	0	0	2	5
G校	1	1	1	1	0	1	0	5
H校	0	0	0	2	1	2	0	5
I校	0	0	1	2	2	0	0	5

※合計が4名以上の学校

※同一生徒が同じ分野に複数年にまたがって出場した場合、重複して数えない

作成：青木 瑛佳（東京大学先端科学技術研究センター）

多方面で活躍する筑駒生

- ・2024年度 司法試験合格（史上最年少）
- ・第24回 日経 STOCK リーグ 中学部門優秀賞・審査委員特別賞
- ・第29回 全国高等学校デザイン選手権大会 準優勝
- ・水泳部 東京都中高一貫校対抗水泳競技大会 男子50m 平泳ぎ 1位(新記録)
- ・演劇部 第59回 関東大会 優良賞
- ・語学部 第9回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会 Semifinalists team prize/ Best Speaker(3 times) prize
- ・「点字を墨字に翻訳するアプリの開発」（「第64回 日本学生科学賞」「内閣総理大臣賞」）
- ・27th English Debate Contest of Tokyo Senior High School Students The Best Debater Prize
- ・将棋部 日本将棋連盟 花みず木竜王戦 中学生の部 優勝
- ・「「アンプリチュード法」で地震動被害の予測を世界へ～低密度観測点での地震被害の予測～」（文部科学省主催「地震・測地データ活用アイデアコンテスト」において、最優秀賞とアイデア大賞）

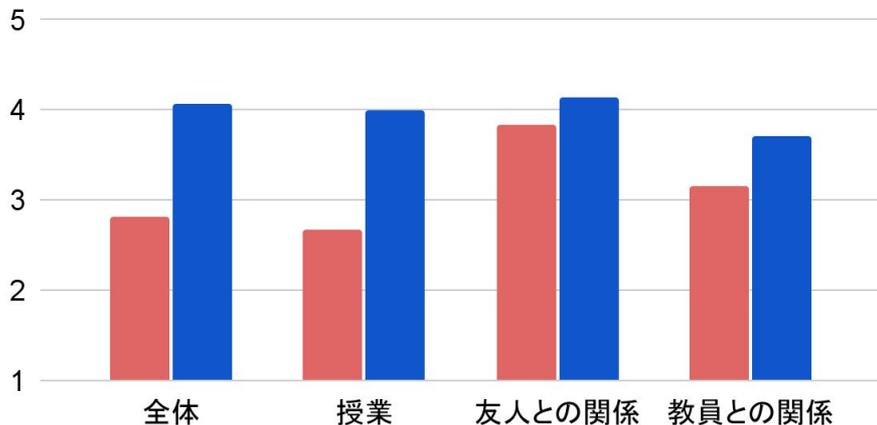
など

「才能のある生徒」が高密度で在籍している一例

筑駒生の学校適応感— 過去と現在の比較

学校適応感—過去と現在の比較(中学生)

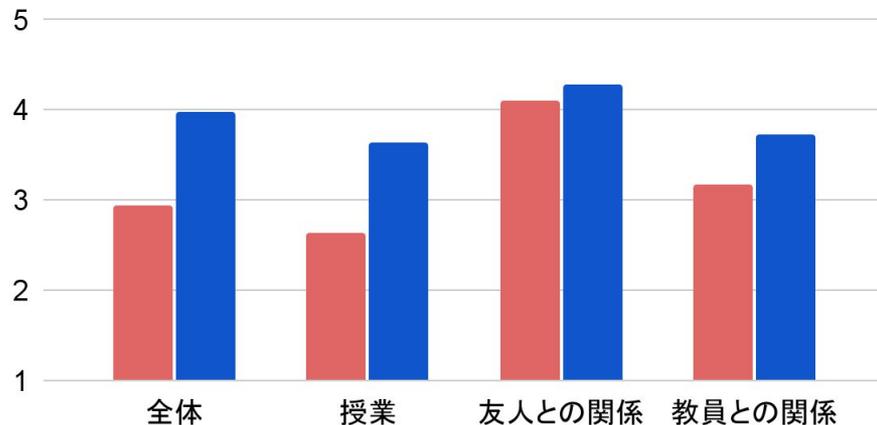
■ 過去 ■ 現在



中学生

学校適応感—過去と現在の比較(高校生)

■ 過去 ■ 現在



高校生

石田(2009)の「学校適応感尺度」(16項目, 5件法)で測定

筑駒生は全般的な学校適応感が高い

調査の概要（筑波大学研究倫理審査承認番号：附23-4）

【調査A】生徒たちの行動特性と、学校生活への適応状況を分析し、行動特性と適応状況との関連性、また行動特性に応じた適応方略を調べることで、特異な才能を持つ子どもたちに最適な学びが生じる環境を模索する

【調査B】生徒たちが「好ましい」と感じる空間にはどのような機能が求められるか分析し、そのニーズに対して、学校図書館をはじめとする諸施設にはどのような機能が求められるかを考察する

【調査C】生徒たちが「これを学べてよかった、とても刺激的でタメになった」と感じる教育活動には、どのような特質が求められるのかを学習動機や指導方法の関連性とも関連づけながら分析。その教育的ニーズをより効果的に充足できる方策を考察する

→ 「**才能が伸びる環境**」づくりについて、示唆を得る。

調査 A

行動特性と学校生活への適応状況

<質問紙調査>

対象：中学 1 年から高校 3 年までの全生徒

方法：オンラインでGoogleフォームに入力

時期：2023年12月12日（火）～14日（木），2024年1月9日（火）

<インタビュー調査>

対象：生徒64名（中 1 -12名、中 2 - 6 名、中 3 -16名、高 1 - 7 名、高 2 -23名）

調査協力：青木 瑛佳（東京大学先端科学技術研究センター）



調査 A 生徒の行動特性〔質問紙調査〕

測定方法：才能児の不協和感（GDF）チェックリスト

- 松村・水野(2020)によって開発。
- 「特異な才能を持つ子どもが他の多くの子どもと異なることが多い行動特性」で構成されている。
- 具体的には、才能児一般（学業だけでなく芸術面なども含む）の特徴として提唱されている 5 領域のOverexcitability（過興奮性, OE）
—①知的OE、②運動OE、③想像OE、④情動OE、⑤感覚OEと、著者の先行研究から導かれた 2 つの追加特性、⑥過集中と⑦完璧主義—で構成されており、33問の質問がある。
- 「1.めったにない」～「5.非常に頻繁」までの5択で回答
- 本研究では、質問紙調査で用いられたのみでなく、追加のインタビュー調査にて、本特性が生徒自身にどのように評価されているか—特性による困り感の有無—と、その評価の理由についてたずねた。

GDFチェックリストの下位領域別の項目例

- **知的OE（興味・疑問・問題解決）**
～興味をもったことについて、人にたくさん質問したくなる。
- **情動OE（強く伴う感情）**
～生きることや死ぬことの問題について深く考えて苦悩する。
- **想像OE（生き生きした想像）**
～未来や未知のものを想像して、恐れる。
- **運動OE（抑制できない活動性）**
～展開や動きの速いゲームやスポーツに、はまりやすい。
- **感覚OE（敏感・感覚的こだわり）**
～時計の音などの小さな雑音でも、うるさく感じて物事に集中できない。
- **過集中**
～好きな活動に集中していると、途中でやめにくい。
- **完璧主義**
～自分の作品の細かい点が気に入らないと、満足するまで修正する。

調査 A 生徒の行動特性〔質問紙調査〕

GDFチェックリスト下位領域別の回答分布

50%以上の生徒が「3.時々」より頻度が高い項目を選択した質問の割合

- 知的 OE (興味・疑問・問題解決) 5/5 (100%)
- 情動 OE (強く伴う感情) 3/4 (75%)
- 想像 OE (生き生きした想像) 3/4 (75%)
- 運動 OE (抑制できない活動性) 4/7 (57%)
- 感覚 OE (敏感・感覚的こだわり) 1/5 (20%)
- 過集中 3/4 (75%)
- 完璧主義 4/4 (100%)

筑駒には、知的OE、完璧主義、過集中、情動OE、想像OEの特性を持つ生徒が多い

調査 A 生徒の行動特性と適応状況〔インタビュー調査〕

困り感の項目差まとめ

- **運動OE（抑制できない活動性）と情動OE（強く伴う感情）**
→ 比較的困り感が高い
- **知的OE（興味・疑問・問題解決）と過集中**
→ 比較的困り感が低い
- **想像OE（生き生きした想像）と完璧主義**
→ 項目による
- **感覚OE**→ 回答者数が少なく、分析が出来ていない
（そもそも「頻繁／非常に頻繁」と回答した生徒が少ない）

調査 A 生徒の行動特性と適応状況〔インタビュー調査〕

困り感の軽減要因

困り感の評定理由を探っていくうちに、評定が低い場合は、困り感を軽減する要因がある場合がほとんどであり、その要因には「個人要因」と「環境要因」があることが見いだされた。

- 個人要因＝主に本人のスキルやストラテジー
- **環境要因＝筑駒の授業／教員、または生徒全般の特性**

「才能が伸びる環境」づくりへの示唆 ——授業のデザインや教員の対応の工夫——

以下は、**筑駒の授業／教員の特性**により軽減されている言及があった項目

- 「車内や授業などで長時間じっとしている状況は辛い」
- 「図書館など人のいる場所では、自分の勉強に集中できない」
→ **授業における「能動的活動」が多い**筑駒では困り感が軽減されている
- 「好きな活動に集中していると途中でやめにくい」
- 「自分の作品の細かい点が気に入らないと、満足するまで修正する」
- 「課題が計画通りに出来上がらないと不満が残る」
→ **「生徒のこだわり」に対して寛容**な筑駒では困り感が軽減されている

「授業内の能動的な要素を増やす」「自由な発言を認める」「熱心に取り組んでいる生徒には、締め切りを柔軟に設定する」といった教員の働きかけが、生徒の特性に合っている可能性

「才能が伸びる環境」づくりへの示唆

——コミュニティの必要性——

筑駒の生徒全般の特性により軽減されている言及があった項目

- 「喋りだしたら止まらない」
→ 「**聞いてくれる**」「**合わせてくれる**」**友達**が存在しているようだ
- 「考える前に衝動的に動いてしまう」
- 「自分の理想や感情に他の人が共感しないと、落ち込んだり悲しみや怒りを感じる」
→ **筑駒生は異なる意見にも耳を傾け、冷静でいる**ことが推測できる言及あり
- 「興味を持ったことについて人にたくさん質問したくなる」
→ **筑駒生は全体としてそういう傾向がある**、という言及あり

調査 B

「好ましい」と感じる空間と「学校図書館」のあり方

<質問紙調査>

対象：中学 1 年から高校 2 年までの全生徒

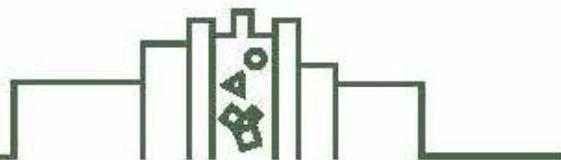
方法：オンラインでGoogleフォームに入力

時期：2024年3月12日（火）～13日（水）

<フォトボイスインタビュー調査>

対象：生徒 9 名（中1：2名／中2：2名／中3：2名／高1：2名／高2：1名）

調査協力：小野 永貴（筑波大学）・庭井 史絵（青山学院大学）



集計① 学校のどの施設が、生徒に「好ましい」と感じられているか？

筑駒の生徒は、全体的には教室を好んでいる傾向にある（第2位）

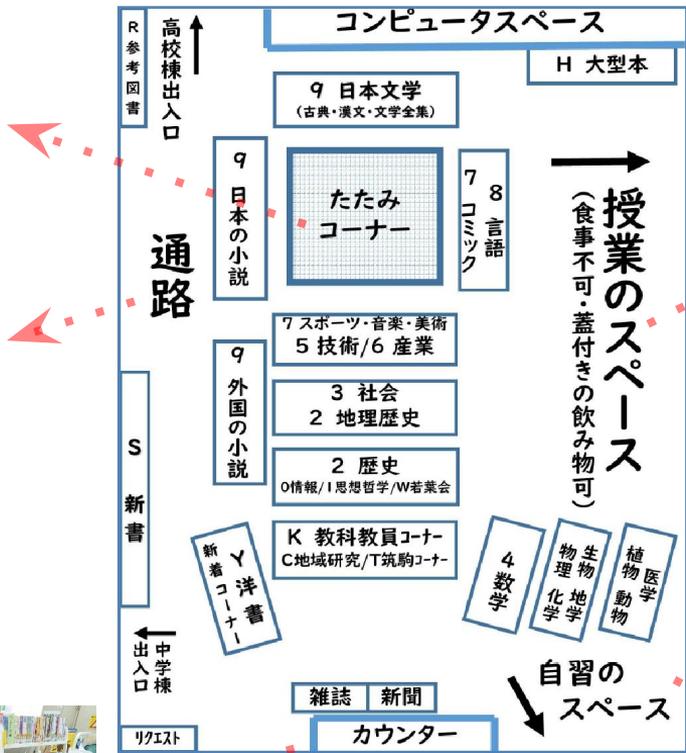
校内施設で一番好まれているのは学校図書館である。（第1位）

その他、朝日の広場・夕日の広場、芝生の広場などの「広場」も、好まれている傾向が強い。

好ましい場所ですか？

[5: とてもそう思う / 4: 概ねそう思う / 3: どちらとも言えない / 2: あまりそう思わない / 1: まったくそう思わない]

	全体平均	中学・高校別平均		学年別平均				
		中学	高校	中1	中2	中3	高1	高2
教室（ホムロンーム）	4.08	4.00	4.19	4.10	3.95	3.96	4.39	3.96
オープンスペース	3.59	3.62	3.56	3.37	3.90	3.60	3.55	3.56
図書スペース	4.18	4.16	4.16	4.19	4.32	4.00	4.06	4.28
コンピュータスペース	3.51	3.40	3.67	3.31	3.31	3.56	3.59	3.77
コモンスペース	3.75	3.95	3.80	4.15	3.80	3.62	3.68	3.51
保健室	3.52	3.53	3.50	3.26	3.70	3.64	3.35	3.69
高校ロッカールーム	3.12	2.77	3.53	2.47	2.96	2.94	3.66	3.38
芝生の広場（高校ロッカールーム上）	3.82	3.58	4.13	3.35	3.71	3.69	3.93	4.36
50周年記念会館	3.60	3.61	3.58	3.42	3.62	3.79	3.58	3.58
特別活動室（旧中図）	3.43	3.30	3.61	3.16	3.40	3.34	3.47	3.76
文芸・生徒会・自治会室	3.18	2.97	3.45	2.78	3.21	2.97	3.31	3.62
教育相談室	2.94	2.86	3.06	2.76	3.10	2.75	2.95	3.18
廊下	3.26	3.26	3.26	3.33	3.22	3.24	3.36	3.15
建物の間の遊り廊下（22号館の前、25号館の前）	3.42	3.42	3.41	3.48	3.58	3.23	3.54	3.26
階段	3.15	3.14	3.18	3.10	3.21	3.11	3.17	3.19
トイレ	3.06	3.07	3.05	2.99	3.04	3.18	3.00	3.12
正門周辺	3.53	3.50	3.57	3.55	3.54	3.44	3.69	3.43
プロティ・中庭（中学昇降口前）	3.70	3.67	3.75	3.78	3.59	3.66	3.78	3.71
グラウンド	3.79	3.79	3.80	3.92	3.73	3.72	3.85	3.74
多目的コート	3.55	3.53	3.57	3.60	3.58	3.42	3.61	3.52
テニスコート	3.67	3.67	3.68	3.67	3.78	3.56	3.77	3.57
体育館	3.74	3.70	3.80	3.81	3.62	3.68	3.84	3.74
卓球場	3.43	3.28	3.64	3.29	3.28	3.28	3.70	3.58
武道場	3.21	3.23	3.19	3.27	3.33	3.09	3.19	3.18
トレーニング場	3.28	3.23	3.31	3.17	3.22	3.30	3.29	3.33
プール	3.23	3.29	3.14	3.40	3.39	3.10	3.17	3.12
朝日の広場・夕日の広場	3.98	4.01	3.94	4.02	3.88	4.11	3.96	3.92
知の泉	3.23	3.16	3.32	3.13	3.43	3.01	3.39	3.23
岩石園	3.57	3.52	3.65	3.40	3.70	3.47	3.66	3.65
温室・畑	3.30	3.32	3.26	3.25	3.48	3.26	3.30	3.21
農芸部の畑	3.20	3.15	3.26	3.10	3.44	2.98	3.32	3.20
ケルネル水田	3.58	3.63	3.50	3.77	3.75	3.39	3.46	3.54
グラウンド御蔵棚	3.57	3.61	3.52	3.59	3.67	3.58	3.55	3.50
1-2号館間蔵棚	3.53	3.52	3.55	3.48	3.68	3.43	3.62	3.47
物理講義室	3.47	3.38	3.60	3.08	3.55	3.49	3.39	3.84
物理実験室	3.44	3.32	3.61	3.01	3.44	3.49	3.41	3.84
生物講義室	3.65	3.63	3.68	3.35	3.78	3.77	3.66	3.72
生物実験室	3.52	3.50	3.55	3.37	3.59	3.55	3.44	3.68
化学講義室	3.64	3.68	3.58	3.64	3.62	3.79	3.66	3.73
化学実験室	3.65	3.73	3.54	4.00	3.49	3.70	3.32	3.81
地学教室	3.50	3.50	3.50	3.20	3.52	3.74	3.49	3.52
LL教室	3.67	3.81	3.48	4.18	3.55	3.70	3.46	3.50
保健体育科教室	3.11	3.02	3.22	3.03	3.20	2.85	3.21	3.24
地理教室	3.55	3.49	3.65	3.50	3.54	3.43	3.66	3.63
音楽教室	3.78	3.88	3.64	4.06	3.68	3.88	3.65	3.63
美術教室	3.53	3.57	3.47	3.60	3.63	3.48	3.38	3.57
技術教室	3.59	3.66	3.49	3.78	3.71	3.50	3.39	3.60
家庭科・書道教室	3.11	3.15	3.05	3.11	3.43	2.95	2.95	3.18
調理実習室	3.38	3.41	3.35	2.97	3.77	3.46	3.21	3.51
陶芸実習室	3.13	3.05	3.24	2.96	3.31	2.96	3.17	3.31
工芸実習室	3.17	3.01	3.36	2.93	3.31	2.89	3.28	3.47



〈参考〉
 文部科学省. 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総則編, p.90.
 学校図書館については, 「読書センター」「学習センター」「情報センター」
 としての機能を有している (要約して抜粋)

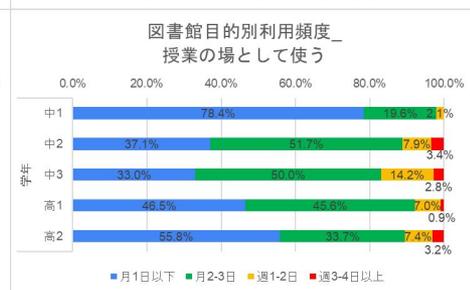
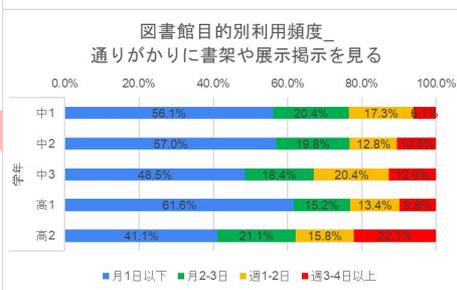
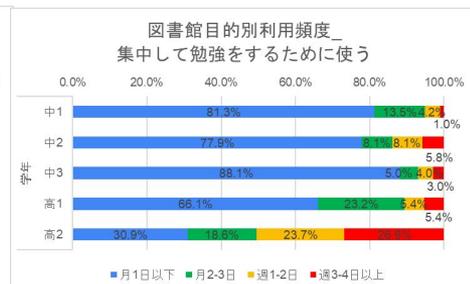
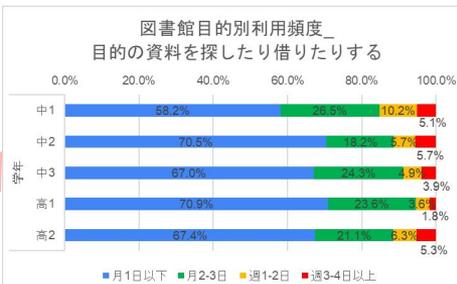
集計② 学校図書館では、どのようなスペースが好まれているのか？

学校図書館の中では、
たたみコーナーが
顕著に好まれている。



学校図書室の目的別の利用頻度を見ると、「通りすがりに見る」「授業の場として」の利用頻度が高い傾向にある。

	全体平均	中学・高校別平均		学年別平均				
		中学	高校	中1	中2	中3	高1	高2
カウンター	3.02	2.99	3.07	3.01	2.85	3.09	2.98	3.17
小説や文学の書架	3.38	3.36	3.42	3.45	3.25	3.36	3.37	3.47
コミックの書架	3.38	3.40	3.35	3.61	3.20	3.36	3.28	3.43
数学や科学の書架	3.26	3.28	3.23	3.33	3.08	3.41	3.19	3.27
それ以外の分野の書架	3.23	3.18	3.29	3.23	3.03	3.25	3.27	3.31
文庫・新書コーナー（通路）	3.27	3.22	3.34	3.32	2.99	3.32	3.25	3.46
新着図書コーナー	3.22	3.16	3.30	3.21	3.05	3.22	3.22	3.39
新聞・雑誌のコーナー	2.99	2.91	3.10	2.88	2.81	3.03	3.02	3.19
教科教員推薦図書のコーナー	3.18	3.11	3.28	3.03	2.97	3.31	3.25	3.33
地域研究・筑駒のコーナー	3.14	3.06	3.26	3.02	3.09	3.08	3.30	3.20
授業のスペース（大机のスペース）	3.35	3.30	3.43	3.15	3.21	3.53	3.35	3.53
自習のスペース	3.40	3.24	3.63	3.25	3.20	3.27	3.47	3.80
たたみコーナー	3.74	3.82	3.62	4.11	3.62	3.71	3.45	3.82
コンピュータスペース	3.32	3.26	3.40	3.18	3.00	3.55	3.35	3.47
展示・掲示	3.04	2.99	3.11	2.91	3.00	3.07	3.01	3.22
可動式の机	2.96	2.94	2.99	2.82	2.93	3.06	2.90	3.11
可動式の椅子	3.01	2.99	3.05	2.89	2.96	3.11	2.91	3.21



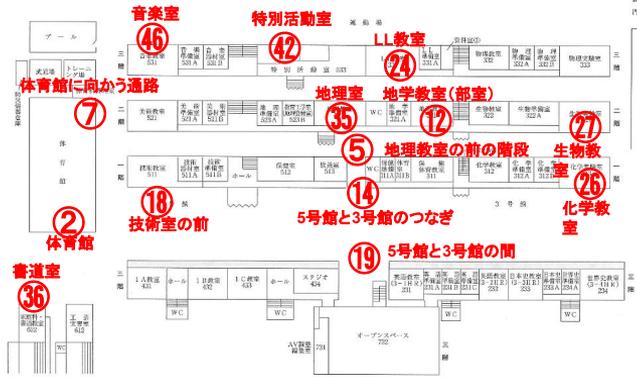
調査B 「フォトボイスインタビュー」の概要

- 対象者
質問紙の末尾で追加調査の協力依頼を掲載し、承諾を得られた方から対象者を抽出し、打診。
- フォトボイス調査の依頼内容

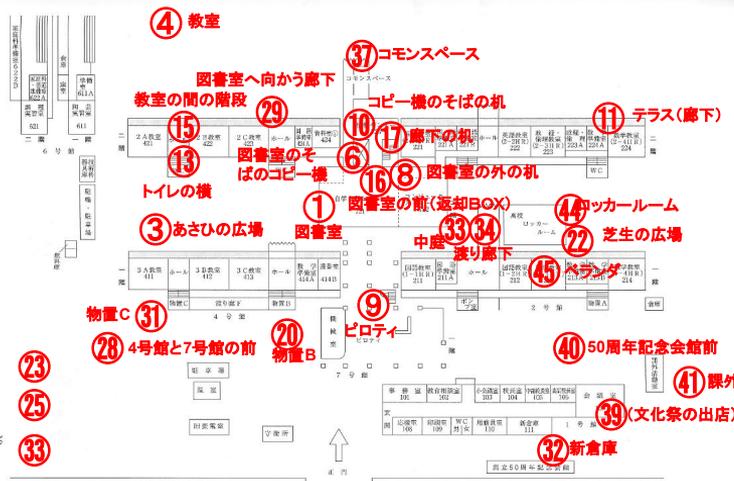
調査に協力してもらう方に日常生活の写真を撮っていただくことで、日常の体験を可視化する調査方法です。皆さんにとって好ましいと感じた「場所」を写真撮影していただき、後日皆さんと写真を眺めながらインタビューを行うことで、撮影したときにその場所の皆さんにとっての意味や感覚を把握します。

- 実施手順
 - 各自の端末で撮影し、指定のGoogleDriveフォルダに提出。
 - 写真提出が確認できた方に、口頭での聞き取りを依頼。

結果：インタビューで言及された「場所」



教職員数	
校長	1
副校長	2
主任教諭	6
教諭	33
業務教諭	2
事務職員	4
教務補助員	5
駒場会後援委員会	1
校長	2
学校薬剤師	1
スクールカウンセラー	2
スクールソーシャルワーカー	1
非常勤講師	20
研究員	1
総務職員	3
(2024年)	
在校生数(学級数)	
中学校	387名
中1	123名(3)
中2	123名(3)
中3	121名(3)
高等学校	485名
高1	164名(4)
高2	164名(4)
高3	157名(4)
(2024年)	



学校内で「好ましい」と感じる場所に対する 生徒の認識に関するカテゴリ・コード

〔その場所の物理的条件について〕

開放感が得られる／自然が感じられる／閉鎖的（狭い，暗い，静か）／学校独自の場所

〔居方について〕

過ごし方を強制されない／何をしても許される／好きなことに取り組める／なじみがある／リラックスできる

〔モードに応じた使い分けについて〕

集中する／一人になる／誰かとつながる

〔場所が与えてくれるものについて〕

興味のあるものがある／人の存在を感じられる／人から刺激を受けられる

「筑駒図書館」に対する 生徒の認識に関するカテゴリ・コード（抜粋）

〔「空間的な特徴」に関する言及〕

- 静かな場所：音を出せない／しゃべることができない
- 雰囲気
くつろげる／自分に向き合う／独自性／本の存在／多種多様な本／知識を得る
／知的な刺激を受ける
- 自由／不自由
自分の意思が尊重される／ふらっと立ち寄れる／気分によって使い分けられる
／自由な空気／自由な体勢／制限がある

〔「図書館を使う／使わない」理由に関する言及〕

- 静かさ
- 人との関係
干渉されない／一人になれる／人が多くて使えない／他者の存在感／友人と話
せる／友人と話せない

調査B 「フォトボイスインタビュー」調査を踏まえた知見

- **自身の特性と利用可能な場所を認識し、使い分ける**
 - 一人か多人数か、静寂か賑やかか 等
 - 場所の価値を自身で定義
- **過去の記憶により形成される場所への意識**
 - 過去の自身の回想や後輩が見えることによる安心
 - 発達段階に応じた分離ではなく、壁のない移行と共存
- **学校図書館に対する意識の開き**
 - 強く好まれているが、その根底の認識には大きな隔たり
 - 複合的・開放的・中心的な施設による“包容”

「才能が伸びる環境」づくりへの示唆 ——「ウェルビーイング」を支える学校図書館——

- 活動範囲の「**中心的位置**」にあること
 - 「通りすがり」に立ち寄れること
- 開放的か閉鎖的か、一人か複数かといった二極の構造ではなく、**ハイブリッドな併用が可能な環境**
 - 特性に応じた**生徒自身の選択・決定**が可能であること
- 他の生徒の存在感を感じ、**安心感を抱ける環境**
 - 【空間面】音環境と可視性が、段階的に両立されていること
 - 【時間面】創作成果物や活動の過程の蓄積されていること

調査 C

「学べてよかった、刺激的でタメになった」と感じる
教育活動

<質問紙調査>

対象：中学 1 年から高校 2 年までの全生徒

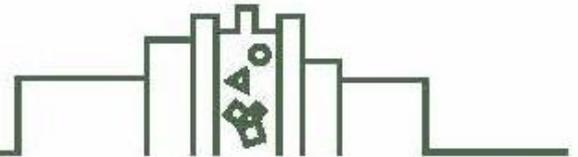
方法：オンラインでGoogleフォームに入力

時期：2024年3月12日（火）～13日（水）

項目

- ①この 1 年くらいの間で受講してよかったと思う授業とその単元
- ②課題価値測定尺度（伊田, 2004）
- ③創造性の伸長を促す教師の働きかけ尺度（生徒用）（Soh, 2000を改作）

調査協力：緩利 誠（昭和女子大学）



調査C 筑駒生が評価した課題価値の特徴 〔質問紙調査 n=516〕

<Top 5>

項目No	項目内容	ポジティブ		ネガティブ		平均値	分散
		小計 (5+6+7)	小計 (6+7)	小計 (1+2+3)	小計 (1+2)		
		%	%	%	%		
5	学んでいて、おもしろいと感じられる内容。	86.8	75.6	7.0	6.4	6.0	2.481
13	興味をもって学ぶことができるような内容。	84.7	70.0	7.8	5.8	5.8	2.393
19	学んでいて好奇心がわいてくるような内容。	83.9	67.1	8.5	6.2	5.8	2.455
23	学んでいて楽しいと感じられる内容。	83.3	66.9	8.1	6.0	5.8	2.501
6	高校を卒業した後の学習活動につながる内容。	70.9	49.0	14.5	9.1	5.1	2.741

<Worst 5>

16	自分の日常生活の中で実際に役に立つ内容。	52.1	28.1	27.3	17.1	4.4	3.050
1	就職や進学の試験突破にとって大切な内容。	49.8	27.9	36.0	24.0	4.2	3.546
20	就職または進学する際に要求されると思う内容。	47.7	26.4	30.6	21.5	4.2	3.337
9	学ぶと、自分自身のことがよりよく理解できるようになる内容。	45.9	27.5	27.3	16.3	4.4	2.994
15	自分という人間に対して興味・関心をもつような内容。	45.5	24.6	27.5	17.2	4.3	3.031

調査C 課題価値の特徴 全国との比較 (t検定)

※高1・2年生のみ：筑駒 n=213、全国 n=342

項目No	項目内容	差分						筑駒		全国	
		効果量 (d)	ポジティブ		ネガティブ		平均値	分散	平均値	分散	
			小計 (5+6+7)	小計 (6+7)	小計 (1+2+3)	小計 (1+2)					
			%	%	%	%					
5	学んでいて、おもしろいと感じられる内容。	0.58	***	17.2	30.3	-11.0	-5.1	6.1	2.504	5.6	3.116
19	学んでいて好奇心がわいてくるような内容。	0.57	***	20.7	30.3	-11.1	-3.5	5.9	2.614	5.4	3.145
13	興味をもって学ぶことができるような内容。	0.56	***	22.1	27.6	-11.2	-3.8	5.9	2.434	5.5	2.858
23	学んでいて楽しいと感じられる内容。	0.47	***	18.8	22.9	-8.6	-2.7	5.9	2.731	5.5	2.895
4	将来の仕事に関わる社会的な問題を理解するのに役立つ内容。	0.35	***	14.3	24.3	-9.1	-1.8	5.1	3.407	4.8	3.260
24	学ぶことで人間的に成長すると思えるような内容。	0.30	***	14.1	18.0	-6.9	-1.8	5.2	3.273	5.0	3.018
7	学ぶことによって、より自分らしい自分に近づくことができる内容。	0.26	**	10.0	13.2	-7.5	-3.2	4.8	3.184	4.6	3.074
6	高校を卒業した後の学習活動につながる内容。	0.23	*	14.4	14.7	-3.6	0.2	5.2	2.952	5.0	2.976
9	学ぶと、自分自身のことがよりよく理解できるようになる内容。	0.20	*	5.7	8.8	-6.8	-4.9	4.6	3.262	4.4	3.149
3	普段の生活における問題解決に必要とされる内容。	0.19	*	9.6	12.4	-6.3	-0.8	4.7	3.128	4.6	2.913
21	進学してからの高度な学習内容の理解に役に立つ内容。	0.18	*	11.4	11.4	-6.5	-0.1	4.8	3.132	4.7	3.178
14	就職や進学をしようとする際に役に立つ内容。	-0.20	*	-6.0	-3.9	6.4	8.8	4.4	3.523	4.5	3.279
20	就職または進学する際に要求されると思う内容。	-0.24	**	-6.9	-8.7	3.1	10.9	4.2	3.553	4.3	3.417
1	就職や進学の試験突破にとって大切な内容。	-0.34	***	-9.9	-8.3	14.9	14.8	4.1	3.615	4.4	3.346

*>.05, **>.01, ***>.001

調査C 筑駒生が認識する創造性の伸長を促す教師の働きかけへの評価

〔質問紙調査 n=516〕

<Top 10>

項目No	項目内容	ポジティブ		ネガティブ		平均値	分散
		小計 (4+5+6)	小計 (5+6)	小計 (1+2+3)	小計 (1+2)		
		%	%	%	%		
44	先生は、授業の中で扱った範囲を超えて学ぶことを認めてくれる	76.0	51.9	10.2	5.5	4.7	1.601
16	私たちが質問したとき、先生はじっくりと聞いてくれる	74.5	44.6	11.7	6.2	4.5	1.547
3	先生は、私たちが1つのテーマを掘り下げて、じっくり取り組めるように授業を展開してくれる	74.5	52.3	11.7	6.7	4.7	1.717
5	授業では考えることが求められ、先生は私たちの考えを掘り下げるよう促してくれる	74.3	51.1	11.9	6.0	4.6	1.671
25	先生は、私たちの提案を軽々しくあしらわない	74.3	47.9	11.9	6.0	4.6	1.614
32	私たちがいろいろなやり方で物事をじっくり考えることを、先生はよしとしてくれる	74.3	44.6	11.9	5.2	4.6	1.551
37	先生は、自由に答えられるような質問を私たちに投げかけ、自分たちで答えを発見するよう促してくれる	71.3	39.4	14.9	6.5	4.4	1.579
2	授業では、私たちがお互いの考えや見方を共有する機会を設けてくれる	70.8	42.7	15.4	8.5	4.4	1.781
1	先生は、私たちが独自に学んだことを示すよう促してくれる	70.6	41.2	15.5	8.3	4.4	1.745
29	先生は、私たちに授業中、質問したり、提案したりするよう促してくれる	70.3	38.9	15.9	6.8	4.4	1.639

調査C 創造性の伸長を促す教師の働きかけ尺度全国との比較

※高1・2年生のみ：筑駒 n=213、全国 n=342

項目No	項目内容	差分						筑駒		全国	
		効果量 (d)		ポジティブ		ネガティブ		平均	分散	平均	分散
				小計 (4+5+6) %	小計 (5+6) %	小計 (1+2+3) %	小計 (1+2) %				
3	先生は、私たちが1つのテーマを掘り下げて、じっくり取り組めるように授業を展開してくれる	0.96	***	37.1	41.9	-39.5	-20.0	4.8	1.839	3.4	1.877
4	私たちに何か考えがあるとき、先生は自分の立場を明らかにする前に、その考えをさらに深掘りするよう促してくれる	0.81	***	36.4	32.5	-37.6	-20.2	4.3	1.802	3.3	1.675
5	授業では考えることが求められ、先生は私たちの考えを掘り下げるよう促してくれる	0.61	***	25.0	28.5	-28.2	-12.6	4.6	1.829	3.7	1.893
44	先生は、授業の中で扱った範囲を超えて学ぶことを認めてくれる	0.60	***	21.8	28.4	-24.8	-7.3	4.8	1.782	4.0	1.789
1	先生は、私たちが独自に学んだことを示すよう促してくれる	0.59	***	29.6	28.2	-31.2	-5.2	4.5	1.929	3.7	1.555
41	私たちが先生の指示した内容とは別のことを試しても許してくれる	0.53	***	25.7	22.0	-26.0	-11.2	4.4	1.832	3.7	1.813
35	先生は、私たちが自分たちの考えを試してみたり、先生が教えたことは別のことを試みたりしても気にしない	0.52	***	25.1	23.5	-27.0	-10.6	4.4	1.872	3.7	1.762
30	先生は、授業で基礎的な知識・スキルが社会や生活とどう関連するのかが私たちが分かるように取りあげてくれる	0.49	***	21.3	20.3	-24.9	-10.8	4.2	2.107	3.5	1.874
13	私たちが何かを提案したとき、先生はさらに深く考えるよう質問を投げかけてくれる	0.49	***	24.2	19.9	-25.4	-9.1	4.3	1.796	3.7	1.782
34	たとえ現実的でなかったり、役に立つようなものでなかったりしても、先生は私たちの提案に耳を傾けてくれる	0.48	***	22.6	18.2	-25.0	-9.8	4.4	1.809	3.7	1.683
37	先生は、自由に答えられるような質問を私たちに投げかけ、自分たちで答えを発見するよう促してくれる	0.47	***	23.1	17.8	-26.2	-11.4	4.4	1.830	3.7	1.847
16	私たちが質問したとき、先生はじっくりと聞いてくれる	0.47	***	24.1	20.4	-25.3	-7.6	4.6	1.662	4.0	2.049
19	自分で答えを見つけられるように、先生は質問を投げかけ、私たちの学びを見守ってくれる	0.47	***	21.3	19.0	-23.9	-9.2	4.3	1.836	3.7	1.753
32	私たちがいるいるなや方でも物事をじっくり考えることを、先生はよしとしてくれる	0.46	***	20.6	16.3	-23.5	-5.4	4.6	1.772	4.0	1.648
31	私たちがしっかりと考え抜いた後で、私たちの考えについて、先生は自分の意見を伝えてくれる	0.45	***	18.5	21.3	-22.1	-9.0	4.4	1.976	3.7	1.796
14	先生は、関係ないように思えても遠慮なく自由に質問するよう促してくれる	0.44	***	19.9	19.2	-21.0	-6.5	4.3	1.945	3.8	1.724
6	先生の手直しを待つのではなく、課題を自分で見直すことが求められる	0.41	***	17.1	22.1	-20.9	-6.2	4.3	1.962	3.8	1.731
40	先生は、たとえ時間がかかっても、私たちに違ったやり方も試してみるよう促してくれる	0.40	***	18.7	18.8	-21.2	-8.7	4.3	1.943	3.7	1.806

*>.05, **>.01, ***>.001

「才能が伸びる環境」づくりへの示唆

——授業づくりへの視点——

- 目の前の生徒の知的好奇心を駆り立てる。
 - 受験や定期テストなどの外発的動機に頼りきるのではなく、**内発的な動機を喚起する授業をつくる。**
- 各教科等を通じて、何を学び取ってほしいのか、その教科等（と背景にある学問分野）の「本質を踏まえた軸」をつくる。
 - 指導／学習内容の軽重の判断のもと、**じっくりと時間とエネルギーをかけて学ぶことができる授業**を設計する。
- 授業に「余白」を創出する。
 - 予定調和ではなく、**生徒が試行錯誤できる学習環境**をデザインする。

調査A～Cから見えること ——「才能が伸びる環境と風土」とは——

生徒・教職員の「人格」の尊重

(Ⅰ) 「自己決定」「自己選択」を尊重する文化

特性や関心に応じて、「自分自身が決定・選択」できる

(Ⅱ) 「対等な関係」に基づいた生活

権威や競争ではなく、「互いに認め合う」関係に基づく安心感

(Ⅲ) 「知を拓く学び」の追求

受験や成績といった外的な動機に頼りきらず、「知的な喜び」を分かち合う

